

「あの時こうしていれば…」を防ぐために。

武雄市内にも大きな被害をもたらした平成30年7月の豪雨災害。橘町大日区では、六角川の水位の異常を早期に確認した大日区自主防災会・古川前会長らの働きが全住民のすみやかな避難につながりました。その中心となって活躍された古川正明さんに災害の備えとして必要なことを伺います。



平成30年7月 豪雨時の六角川

「災害が起こるかもしれない」地域全体で意識することが防災につながる。

Q 平成30年7月豪雨はどのような状況だったのですか？

A 短時間に大雨が降り続き、かつてないほど六角川の水位が上昇していました。平成2年に大日地区二帯が床上・床下浸水の被害にあったのを受けて堤防が改修されてから大きな水害はなかったのですが、その堤防をも越えるほどの水量でした。

Q 大日区の全住民が迅速に避難できたのはなぜですか？

A 浸水の被害に遭いやすいことから橘町では平成28年に自主防災会の規約をつくり、各地区で避難経路の確認や危険箇所の点検を行ってきました。大日地区としては私が代表となり、六角川の水位を日ごとから注意して観察していました。7月



大日区自主防災会
前会長 古川正明さん

豪雨の際は目視と気象情報、防災無線の情報を総合して直ちに避難が必要と判断し、評議員に連絡、手分けして各戸に避難を直接呼びかけてもらいました。それが迅速な避難につながったと感じています。

Q いざ災害が起きた時のために、普段の備えとしてどんなことが重要だと思いますか？

A 災害が起こるかもしれないと常に意識することでしょうか。特に地域の代表である区長にはその意識を高く持つて欲しいですね。水害が多い地区も、そうでない地区でも浸水や土砂崩れなどの被害がないとは言えません。災害が「いつか起こるかもしれない」と意識しましょう。また普段から隣近所の住民とコミュニケーションを取って災害時にどう行動すべきか確認し合うことも大事ですね。



住民の安全を守る、大日区自主防災会のみなさん

写真左から(評議員)青木義孝さん(前会長)古川正明さん
(現会長)古川正幸さん(評議員)古川好則さん

今号の特集はいかがでしたか？防災マンのクイズでは意外な答えもあったのではないのでしょうか。災害時の市からのお知らせが変わる点も今一度確認しておきましょう。ただの雨と思って油断していると、思わぬ大きな災害になるかもしれません。自分や大切な人の命を守るために、防災に意識を向けましょう。



お知らせ

防災危機管理課では、防災に関して分かりやすく紹介する出前講座を行っていますのでぜひご利用ください！詳しくは市報と一緒に配布されているパンフレットをご確認ください。